目　次

はしがき

序　章　戦前の政党をめぐる論点……1
終わらない政党不信　日本における政党の起源　「近代政党」とは何か　戦前期政党政治史研究　政党政治と地域　課題と方法　島根県のメディア状況　各章の構成

第1章　島根県における憲政会・立憲民政党勢力の形成と展開……15
――大正・昭和戦前期の「近代政党」への転換の構造――

1　戦前期の政党研究・選挙研究の再検討　15
戦前期政党政治史研究の整理　戦前期の選挙をめぐる有権者の投票行動

2　戦前期島根県の経済・政治状況　17
戦前期島根県の経済産業構造　明治・大正初期までの島根県の政治状況

3　克堂会の結成――憲政会勢力の転換期　19
政友会勢力の伸長　克堂会の設立　克堂会の思想的背景　第一四回衆院選（一九二〇年）　克堂会の組織的拡大と財政状況

4　憲政会勢力の伸長――第一五回衆院選から第一次若槻内閣成立まで　29
若槻礼次郎書簡の検討　俵孫一の政権交代論　立憲青年党の結成と展開　政治的空間

としての憲克倶楽部　政友会の分裂と政友本党の結党　第一五回衆院選における憲政会勢力の伸長　憲政会と在郷軍人会　第一次若槻礼次郎内閣の成立　渡部寛一郎の選挙戦　憲政会優位体制の成立　憲政会勢力への反発――選挙干渉批判　克堂会分裂騒動

5 民政党の結党――島根県における民政党優位体制の確立　47

民政党の結党　床次脱党問題に対する若槻の「謝罪」　民政党優位体制の確立　民政党島根支部の構造的対立――今市農学校設置問題をめぐる県議会での対立　今市農学校問題とは何だったのか

6 島根県青年連盟大会の開催――「近代政党」としての試み　56

島根県青年連盟大会の概要　青年連盟大会における議題　島根県青年連盟大会の特徴

7 「近代政党」への転換の意義と課題　61

第2章　戦前期地方政党組織論……69

――立憲民政党島根支部の構造と特徴――

1 戦前の政党地方組織の特徴と研究状況　69

政党地方組織の研究状況――支部か個人か　政党組織論の再検討――支部と個人をめぐる論点の再整理

2 立憲民政党島根支部の結成過程　73

民政党結党以前の島根県の政治状況　民政党島根支部の構造――党派と出身地域に見る支部構造

3 支部組織の活動と構造的特徴　76

民政党島根支部部会と政治家後援会の結成　政友会の支部組織と後援会　民政党島根支

部の組織規模　一九三四年の調査に見る島根県の政治結社の状況　床次竹二郎脱党問題　支部長後任問題　政党内閣期以後の支部組織

4 男子普通選挙下における政党組織と後援会 …… 86
——第一六回衆院選（一九二八年）から第一八回衆院選（一九三二年）を中心に
第一六回衆院選における民政党の陣容（第一区）　第一六回衆院選における政友会の陣容（第一区）　第一区の選挙結果　第一六回衆院選における民政党の陣容（第二区）　第二区の選挙結果　戦前における選挙運動——男子普通選挙の中で　第一七回衆院選における民政党の陣容（第一区）　第一七回衆院選における民政党の陣容（第二区）　第一八回衆院選における政友会の分裂（第一区）　第一八回衆院選における民政党候補の選定（第二区）

5 代議士中心型と政党組織中心型選挙区の形成 …… 103
政党組織と後援会　選挙区の二つの類型　自民党との相違点　「近代政党」と政党組織

第3章 一九三〇年代の二つの総選挙をめぐる二つの逆説 …… 111
——第一九回衆院選（一九三六年）と第二〇回衆院選に見る政党の変容と低迷——

1 立候補宣言（挨拶）の意義——選挙公報の誕生 …… 111
政党内閣制の中断と政党の模索　第一九回衆院選の評価　第二〇回衆院選の評価　島根県選出の政治家の政治的位置づけ　選挙公報の評価

2 「近代政党」をめぐる第一の逆説——政党の政策変容と政党内閣制への遠心力 …… 116
民政党の基本国策制定の背景　民政党基本国策の全容　民政党基本国策の意義　政友会の政策大綱の概要　政友会の基本政策の特徴　櫻内幸雄の立候補挨拶　原夫次郎の

立候補挨拶　木村小左衛門の立候補挨拶　俵孫一の立候補挨拶　升田憲元の立候補挨拶　民政党候補の立候補挨拶の特徴　高橋円三郎の立候補挨拶　島田俊雄の立候補挨拶　沖島鎌三の立候補挨拶　政友会候補の立候補挨拶の特徴　選挙結果　選挙公報の評価　産業組合の整備拡充政策　島根県における満洲国への期待感の創出　「日本海湖水化」構想　第一九回衆院選の意味

3　「近代政党」をめぐる第二の逆説――林銑十郎内閣をめぐる政党の行動と評価　139

第二〇回衆院選の背景　原夫次郎の立候補宣言　櫻内幸雄の立候補宣言　木村小左衛門の立候補宣言　俵孫一の立候補宣言　升田憲元の立候補宣言　高橋円三郎の立候補宣言　島田俊雄の立候補宣言　沖島鎌三の立候補宣言　選挙結果と第二の逆説

4　二つの逆説の意味と「近代政党」の矛盾　150

第一の逆説――「近代政党」としての政策整備と政党内閣の条件をめぐる矛盾　第二の逆説――政党勢力復権の挫折　「近代政党」の到達点

第4章　選挙粛正運動の展開とその限界……161

――「政党排除論」をめぐる攻防――

1　選挙粛正運動とは何か　161

選挙粛正運動の概要　本章の目的

2　前期選挙粛正運動の展開とその特徴――一九三四～三六年　164

選挙粛正運動をめぐる組織の整備　無投票選挙区の登場　田澤義鋪の政党排除論　政党排除論の広がり　県議選の結果――続発する汚職・不正

3　政党政治家による政党擁護論――俵孫一と島田俊雄の言説　172

俵孫一「地方自治と選挙」　俵の主張の特徴　島田俊雄『現代政党論』　島田の主張の特徴　第一九回衆院選における選挙粛正運動の展開　選挙粛正運動とメディア

4 後期選挙粛正運動の展開とその特徴――一九三七～三八年　183

第二〇回衆院選での異変――新人議員の当選　第一一回県議選における選挙粛正運動県議選の結果――新人議員の台頭

5 選挙粛正運動がもたらしたもの　189

選挙粛正運動の評価　選挙粛正運動をめぐる言説　「政党排除論」の限界

第5章　政党政治家のイメージ形成……197

――若槻礼次郎に見る政治家のイメージ形成――

1 政治家のイメージを考えるという試み　197

イメージ形成を考えるということ　若槻礼次郎のイメージ形成

2 若槻礼次郎の伝記と政党政治家のイメージ形成　200

『平民宰相』の描く若槻イメージ　大蔵大臣就任から野党時代へ　内務大臣時代の評価　内閣総理大臣としての若槻への期待　『若槻大宰相』の描く若槻像　政治家としての経歴　野党時代の若槻　内務大臣としての若槻の評価　教育者としての若槻

3 メディアが作った政治家イメージ　213

克堂会結成から第一次若槻内閣期まで　ロンドン海軍軍縮条約以後から政権下野まで　寿像建設に見る若槻イメージ

4 政治家のイメージ形成が意味するもの　222

終　章　「近代政党」の経験をどう見るか……227
戦後の島根県政界　「保守王国」への展望　各章まとめ　序章の課題への応答　島根県の地域政治研究の意義――裏日本の政党デモクラシー　政党と地域の関係　政治家の言説　理想化された政党像　政党の専門性と正当性　本当の教訓　坂野潤治の期待と失望　政策中心型の政党をめぐる蹉跌――政党の「自殺」　現代政治への教訓　私たちと政党
参考文献　251
あとがき　263
事項索引
人名索引